

# ひろば大代

NO.196

大代公民館

祝優勝！黄色チーム

「楽しかった町民運動会」

大代小四年 後藤順子

今年も町民運動会で優勝できうれしかったです。今年は去年より走った種目が少ないような気がします。

中学生の百メートル走が終わり、小学生の百メートル走です。私は、五、六年の男子と走ったので一番最後でした。

次に三色リレーで私は純子さんと翔子さんと同じ班でした。翔子さんからバトンをもらって一位は玲子さんで、赤組のカーブの辺で抜けそうでしたがやっぱり玲子さんは、六年生なので抜けませんでした。何位になったかは忘れたけど、いい勝負になったと思います。

そして次、私は誠也くんと一緒に玉入れに出ました。一回目は玉が少なかったけど、二回目は一位でした。私は

少ししか玉が入らなかったけど誠也くんとがんばれてよかったです。

最後の種目は、年代別リレーで私は第一走者です。恵さんが一番で私が二番だったけれど、次に走ったお姉ちゃんがんばってくれました。次の真巳さんは恩田先生に抜かれてしまったけどがんばってくっついていました。私は一番最後に走った谷口さんが速くてビックリしました。どんどん抜いて一番になってくれました。うれしかったです。

私は年代別リレーは毎年出たいと思いましたが、また来年が楽しみです。

黄色チーム連覇なる！

四日市 谷口 浩



雨天のため一週間順延となった第十四回町民体育大会は、十月八日晴天のもと開催されました。沢山の皆さんが農繁期の一時、いい汗をかかれたのではないのでしょうか。

当日の成績はご存じのとおりです。

二十一年ぶりに優勝を飾った昨年に続き、予想もしなかった二年連続の優勝である。前回とは違う感激を味わうことになった。体協の役員の人として自チームが優勝することは大変うれしいことであると共に、参加していた皆さんに感謝する次第です。

勝因はと考えると、…一昨年と状況は変わっていない様な気がするが…チームワークの勝利です。全員一丸となって、死力を尽くした結果です。当然のことながら、全員の協力なしでは不可能であるが、高校生トリオ（息子の法司、後藤克也君、横田雄一君）の活躍も大きな要因ではなかっただろうか。

何れにしても、勝敗は抜きにして快い汗を流し、町民同志の親睦を図ることが大切である。年々高齢化が進む中で、誰でも参加できる数少ない場を今後も継続していきたい。

最後に、二週に渡り予定がつぶれ、準備方にご苦労された体協の役員皆さん、お疲れさまでした。来年からは順延なしにしましょう。

## 戦時体験記

## 「戦場台湾」

山田 向井重男



昭和十九年九月一日、台湾への台南の四部隊へ入隊の為、福岡県八幡市の東公園に集合、部隊の上官が迎えに來られて、銃、及軍装にて船団を組まれた。

御用船三隻と護衛艦に駆逐艦三隻の船団にて、九月七日乗船出港。三日前に出港した船団は朝鮮の仁川沖にて、敵の魚雷を受けたと聞きました。全員救命具をつける。

私達の乗船は船室を二段に改造されて居り、畳一枚に四人ずつ座るがやつとで横になる事も出来ず、機関の音と熱風で息がつまる思いでした。二日位は食事を取りましたが、三日目から船酔いにて食事ものを通らなくなり、玄海灘の波は大きく船は前後左右に揺れながら、乗船して六日台湾のキール

ン港上陸、夜十一時と言うのに岩壁は熱い位焼けていましたが、隊伍を整え汽車にて明くる朝、台南の部隊に逢七〇二、歩兵三百二聯隊第一機関銃中隊へ入隊、焼付けく様な広い練兵場にて初年兵教育が始まりました。

入隊して十日位過ぎてから、初めて営外訓練、砂糖キビ畑、バナナ畑、小川のはとりで小休息、見ればバナナの木に黄色く色付いたのが見え、一本取ろうと思つて手を伸ばすとかたくて取れない。それでも無理に一本取ろうとしたら半分折れ、折れ口から白い汁が出た。古兵が見て、「色は付いて居ても食べれず、一週間位むすとやわらかくなり食べられる」と古兵は笑いながら教えてくれました。

台湾は米は二度採れ、果物・野菜は一年中取れ、宝の島だと思ふ。

一期の検閲も終わり一等兵となる。十月二十三日だったと思う。台湾沖大空中戦が有り、私達も対空陣地に付きしました。火を吹きながら落ちる飛行機パラシュートにて降りる兵隊。この日を境に日本軍は制空圏をうばわれ敵機が来るようになった。

兵舎を離れ中隊ごとに兵舎を作り、陣地構築、二十年三月、上等兵となる。サイパン島、フィリピンも陥ちて戦況は増々悪くなる。私達は敵の上陸を阻止する為に陣地構築の毎日でした。

二十年四月、私は下士官候補として幹部候補生と共に共同学校で毎日厳しい教育が始まりました。敵が何日上陸して来るかわからない時であり、実戦と同じ気持ちで教育を受けました。

幸いにも大田市久手町の森井良雄（候補生）と戦友となり、共に励まし合ひながら教えを受けた事は一生忘れる事は出来ません。戦況は増々悪化して台湾へ沖繩へと毎日の様に空襲、グラマン、ロッキードの銃撃、高雄の上空は黒い煙が上がっていました。

本土の空襲、沖繩へ上陸。

八月十五日、重大ニュースが有り全員集合、ラジオにて終戦を知る。八月二十五日原隊へ帰る。日本へ帰れる日まで自活が始まる。

九月一日、各中隊より若干名共同学校生全員補助憲兵として高雄の憲兵隊に入る。一年前に見た高雄の軍港も見ても無残な姿と変わっていた。港には

赤く焼けて半分沈んだ船が何隻も、又岩壁や山肌も変わっていて、市中もまともな建物はほとんど無い瓦礫と化していた。本国日本はどうなっているだろうか？

台湾には多くの日本人が住んでおりましたが、終戦と共に民情は変わって来ました。内地への引き揚げが始まりました。私達は治安の為に毎日市中の見廻りにつきました。

軍隊の引き揚げも終り、私達の任務も三月二十一日、解かれて大竹港に着いて解散、帰宅。

### 戦時の想い出

本郷 森脇タケ



昭和十六年、大東亜戦争が始まった頃だと思えます。まだ娘の頃で竹槍でわらすば(ワラを束ねたもの)を学校校庭で「ヤーヤー」とけいこしたものです。もし敵が来た時には突くのだと言った事もあります。

その時は余り戦争の恐さは感じませんでした。米を作らなければ食べる事も出来ず、男手が無いと出来ないから

配偶者をもらわなくてはという話になって、その頃の男性は体格のよい者は兵隊に出征していて不合格な者ばかり残っていました。その頃、男手がなくてはいって十八才で結婚したけれど本当に辛かった。

その頃、家にいる者は「非国民」だといつてののしられ、でも九州の炭坑に徴用で行ったりしていました。

女性には山に行き、松の木の根っこを掘ったり松の木に切り目を入れて、松やに油取りに行ったり又、小学校生徒達に私の所の畑を三反ばかりを貸せてあげ、芋植えをしていました。

昭和十九年五月二十六日八代村役場から主人へ招集札状が来ました。私は二人目の子供を産み後が悪く寝ていました。役場の方が「お気の毒ですが招集札状が来ました。」と言われ、覚悟はして居たもののびっくりし、足がふるえてなりませんでした。頭の中ではやっとお国の為に尽くされると思つてふるえる体で主人の所に赤札を持って行きました。主人も私と同じ事を考えて居た様子で、「自分には女房も子供も二人いるので、死んではならん。何

とかして生きて帰る。」とそつと私につぶやきました。世間様に聞こえたら大変な事になります。

六月二十六日には八代村から五人位出征されたと思います。八代のお宮で祈願祭をしてもらい、主人が別れの挨拶をしました。大勢の人に見送られ、私は産後の肥立ちが悪く家から八反田橋まで見送り、主人の兄が浜田連隊に付き添って入隊しました。その隊は同村の坂本勲さんと同じに入隊し、教育を受けたらしく坂本さんから一枚の葉書で「あなたの御主人は此の度、時の日を迎えられた事をお喜び申し上げます。」というのが来て、私は知ったお方にお世話に成ると思つて大変心強く思いました。

それから三ヶ月教育を受け、中支(中国中部)に渡るので面会に行けとの役場からの知らせがあつて、浜田連隊に行きました。もう最後の別れだと思つて涙を出してはいけなないと、じつと我慢していると、主人も人が変わった様に隊長が向こうの方から見えたら大きな声で「敬礼！」と叫んでびっくりしました。私も立派な出征家族として

一生懸命留守を守ろうと決心しました。留守を守っている村の人に千人針を縫ってもらい、私は八代のお宮の床の下の砂と私の頭の髪の毛を入れて戦地へ送って祈願したものです。

農家は食料増産を叫び毎日／＼警報、B二十九が来るそれが空中射撃するから立って走らない様に地べたに伏せる様にせよという事、夜は警戒警報が発令されて外へ光を出さない様にと叫ばれまだ電灯がついていないのでランプに風呂敷をかけたりにして夜を凌いだものです。

内地のものは鉄瓶や佛具等金物は皆供出しました。戦争に勝つためなら何でもしたものです。

それなのに昭和二十年八月十五日天皇陛下のお言葉を聞き、体がじーんとしました。「あ、戦争に負けたんだ。どうしたらいいんだろうか」と夜も寝むれず若くても一生懸命留守を守り、二人の子供の父親はどうなるかしらと心配でたまりませんでした。

私達は若いのでアメリカ兵が上陸すれば若い女は暴行される。どうすればいいのだらうかと村の者と一緒に死ぬ

事も考えました。

その内一番早く復員して帰られたのは隣の横健作さんでした。軍服姿で大きな荷物、背のうを背負って顔は真黒髭だらけで「帰りました。」と言われても誰だか分からず、分かったら一瞬涙が出て仕方がありませんでした。それから次から次へと復員され、気の毒に戦死された方も居られました。やがて主人も元気で戦地から帰って来ました。

私がこんな事を書いて今この平和な時代には考えも及ばないでしょうが、本当に必死の時代でした。五十年も経って居るのにあの辛かった事を思い出し、涙ながらに書いてみました。

\*\*\*十一月行事予定\*\*\*

◆3日(金) 大江高山登山

◆5日(日) 福祉弁当

◆5日(日) 八反田遺跡説明会

◆12日(日) 東京石見高山会総会

◆15日(水) J A 骨健康診断

◆19日(日) 大代町文化祭

◆27日(月) 市長と語る会

午後2時から

交通安全協会よりおしらせ  
会長 市原仁郎

去る十月二十七日、第三十一回島根

県交通安全県民大会が大田市市民会館で開催され大代交安協、交対協、交通安全母の会から六名が参加しました。

席上次の会員が表彰されました。

県警本部長・県交安協会長連名表彰

(交通安全功労者) 渡辺寿雄

(優良運転者・三十年以上)

森 守、渡 正範、大葉隆昌

(優良運転者・二十年以上)

横田美恵子、渡 吉正、小笠原恵利

花田時子、山下幸子、渡辺信義

岩田律枝、横手新治郎、岡田郁男

谷口喜義、森 信子、森 千佳子

高村艶子、竹間勝栄、日向高弘

窪田昌三 (敬称略)

安全運転の記録を更にのばす様努力して下さる事を祈ります。

◎大代公民館より

大阪府河内長野市 中本 弘様

先日公民館へ金一封の御寄付を頂きました。厚く御礼申し上げます。